

同窓会報

No.73

編集発行

三重県立
四日市高等学校
同窓会

四日市市茂福65
TEL <059> 365-3631

印刷

（株）東海フォトデザインシステム



同窓会長 熊澤 誠一郎
（四高29年度卒）

人生百年に向けて

同窓会の皆様には日頃何かとご協力頂き厚く御礼申し上げます。明治32年創立以来、文武両道の建学精神のもと117年の歴史を積み重ねてきた本学の成長と共に、同窓会も順調に成長充実してきており深く感謝いたしております。

生100歳に向かって人間は努力し、進んでおります。

医療の進歩、生活環境の改善、食生活の改良などなど、いろいろあると思いますが目をみはるものがあります。

1世紀を生き抜いたセンチナリアン（百寿者）は、統計を取り始めた1963年には、わずか153人であったのが、2015年には6万1500人になり、2050年には70万人になると推測されており喜ばしいことです。

高年齢者が安心して何の憂いもなく心安らかに生活できる長寿社会を構築していきたいものであります。小生、ご縁あって現在104歳で現役医師日野原重明氏の聲に接し、ここ10年ほど高説を賜り、講演会など行を共にしてきておりますが100歳を立派に生き抜いてこられた大先人として多くの教えられるものがありました。

「老いとは、衰弱ではなく成熟だ」という基本的な考えのもと「いのちはあなたが使える時間のこと」でその時間を世のため人のため使えといわれる。

「人間は新しいことをしようとする意欲がある限り老いない」「創めることさえ忘れなければ人はいつまでも若さが保てる」など104歳とは思えぬ元気で前向きな気概を示す。また、100歳の時、箱根駅伝を見ながら一句。

「百才はゴールではなく関所だよ。今の高齢者に望むことはと聞かれて「今までやったことのないことを創めよ」と檄をとばす。さら

で、戦後70年を経過した今日、人

<平成28年度総会のご案内>

平成28年度総会を下記の通り開催いたします。会員の皆様におかれましては、お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

○日時
平成28年6月4日(土)
13時30分受付/14時00分開会

○場所
四日市市総合会館8階 視聴覚室

○記念講演（総会後）
〈講師〉
熊澤 誠 氏（四高31年度卒）

〈演題〉
「若者の労働状況」
終了後 ・抽選会のあと記念撮影
・喫茶室にてティー・パーティー（無料）

○付 記
・会費期限切れの方には、振込用紙を同封いたしました。会費納入にご協力下さい。
・講演につきましては、一般に公開しております。お知り合いで、ご興味のあります方には、ご案内下さい。

○問合せ
四日市高校同窓会館
TEL・FAX 059-365-3631
Eメール sikoukai@m2.cty-net.ne.jp
http://www.pcs.ne.jp/~shiko/



八稜星に感謝！

学校長 岩間 知之

本校に着任して、早2年が過ぎようとしています。この間、四高同窓会には物心両面で支えていただき、たいへん感謝しています。

四月早々、県監査事務局長のK氏の訪問を受け、事務室は何事かと緊張したのですが、四高卓球部OB会（星稜会）へのお誘いと分

かりホッと一息。かつて私が卓球に打ち込んでいたことを知ってのご配慮とあって、嬉しかったです。同窓会館に招かれ、理事会等にも参加させていただきましたが、懐

深い熊澤会長を始め理事や事務局の皆さまに温く迎えていただき、安心して学校経営に取り組むことができました。

国の指定を受けて始めたSGHの1年目は試行錯誤の連続でしたが、同窓生の方々の協力により、インドネシア研修や土曜日午後のグローバル・リーダー学など、充実した活動を行うことができました。

2年目になり、海外語学研修を復活したいと思い熊澤会長に相談しましたところ、同窓会から参加生徒への資金援助がいただけることになり、実施の決断ができました。上海研修を立案し大成功に

終われたのも、太陽化学株式会社副社長のY氏と四日市市役所に勤務するOBの方々の力なしには考えられません。私事で恐縮ですが、四日市高女出身だった母の回想を昨年度の会誌『人物往来』に載せていただき、何か少し孝行できたような気がいたしました。去年1月には、還暦祝にとS58卒四高男子卓球部員5人が集まってくれて杯を交わし、もう最高の気分でした。その他、挙げればきりがありません。皆さま、本当にありがとうございました。

今年度から、本校の目指す姿を『遍く、険しく、光り輝く八稜星のごとく』と掲げることといたしました。グローバル化と科学技術の進展により混沌の度合いが一層深まるなか、今こそ、伝統の気概に立ち帰りつつ、新しい時代の地平を切り拓く意思と力を育む、本県をリードする高等学校でありたいと願っています。四高同窓会のみならず、今後本校へのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

「名大百人合格。」我ら新入生の担任が高らかに宣言した。入学式を終えたばかりの教室でのこと。遙か40年も前の出来事である。声の主は、今は亡き柳川博生先生。数学教師にして無類の熱血の人であった。圧倒される思いで訓話を聞きながら身が引き締まるとともに少しの疑問も感じた。とは言え保護者や世間の四高への期待は当時も今も変わらない。きれいなことよい結果を残さねばという、先生の切なる思いもひしひしと伝わってきた。▼なぜこんな古い記憶が甦ったかといえば、最近の四高の進学実績がかなり向上していることを知ったからだ。例えば昨年などは、名大に46人、東大に11人が合格している。ここ十年ほどが特に伸びが顕著なようだ。もはや県内有数ではなく、県内トップの進学実績をあげていると言っていいたいだろう。▼ちなみに、『百年史』を紐解いてみると、名大の合格は65人、東大は20人が最大で、ともに昭和50年度のことである。▼進学指導ばかりが高校教育ではない。人間教育が大切なのは言うまでもない。このことは柳川先生も進路部長時代に本会報で述べておられる。▼残念ながら、先生の掲げた大目標はいまだ達成されていないが、近年の母校の躍進にはきつと頬を緩めているにちがいない。（青山）



平成27年度総会は76名の出席を得て、6月6日（土）四日市総合会館にて、熊澤誠一郎会長の日頃の同窓会活動への協力のお礼と今後の協力へのお願い、サミット会場となる三重の活気への期待の話で幕を開けました。

山口教頭からはSGHのご報告をいただき、社会貢献を意識して、自ら課題を与える能動的な勉強姿勢を養うべくご指導いただいているとの母校現状を説明していただきました。

その後西協副会長の司会の下、名越氏を議長に議事審議が行われ、続いて瀬木直貴氏（四高56）による記念講演「『創る』ひと・まち・映画」を拝聴し、記念撮影・ティーパーティーと和やかなうちに会は進行いたしました。

議 事

○第1号議案 平成26年度事業報告

○第2号議案 平成26年度収支決算

○第3号議案 平成27年度事業計画

○第4号議案 平成27年度予算

以上において審議、承認の運びとなりました。

記念講演

映画監督の瀬木直貴氏（四高56年度卒）に、「『創る』ひと・まち・映画」をテーマにご講演いただきました。

映画との出会いは（今は無き弥生館で）4歳のころにゴジラ

シリーズを観たことだったという思い出や、京都の太秦映画村でのアルバイト経験（若山富三郎氏の鞆持ちなど）が映画の道に進むきっかけの一つとなったというお話、四日市を舞台にした「いづれの森か青き海」の撮影を通じてふるさとに対する心境の変化があったというエピソード、その他、映画監督としてのご活躍にかかる数々のお話を、ユーモアを交えてお聞かせいただきました。

また、北九州市・八幡で撮影された「坂の上のマリア」や福岡県新宮町を舞台にした「千年火」といった映画の制作がその地域のネットワークを広げることにつながったとお話や、東日本大震災後に始められた被災地でのこども映画学校のお話など、映画とまちづくり・ひとづくりとの接点について豊富なご経験を基にお話をいただきました。

さらに、最後には監督から、有志と共に四日市高校東京同窓会を立ち上げられたとお話がありました。

映画の世界でのご活躍にとどまらず、ひとづくり・まちづくりに精力的に取り組まれている監督のエネルギー溢れるご講演に会場の空気も引き込まれておりました。

平成27年度 四日市高校同窓会総会報告

記念講演 瀬木直貴氏（四高56年度卒）

「『創る』ひと・まち・映画」

平成27年6月6日
四日市市総合会館
8階 視聴覚室



四女・四高25～29年度卒



四高30年度以降卒



四高56年度卒

一般財団法人四高会 平成26年度 収支決算書			
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)			
単位：円			
科 目	摘 要	決算額	予算額
Ⅰ. 収入の部			
① 事業収益	会館使用料	46,000	50,000
② 受取寄付金	同窓会より	2,600,000	2,600,000
③ 雑収益	受取利息等	35,888	1,000
合 計		2,681,888	2,651,000
Ⅱ. 支出の部			
① 事業費・管理費		1,666,047	2,631,000
会議費	会議等	50,542	110,000
講演開催費	講演会	204,700	300,000
地元協力費	十四川の桜管理	50,000	50,000
消耗品費	コピー機、事務諸経費	138,061	130,000
修繕費	会館修理費	238,804	1,000,000
光熱水料費	電気、水道、ガス	411,585	400,000
保険料	火災保険料	23,510	30,000
租税公課	県税、市税、固定資産税、源泉税等	423,640	430,000
清掃費	環境整備等	111,205	150,000
支払負担金	商工会議所	14,000	14,000
雑費	証明書発行等	0	17,000
② 予備費		0	20,000
合 計		1,666,047	2,651,000
Ⅲ. 当年度収支差額		1,015,841	0
Ⅳ. 前年度繰越金額		155,428	155,428
Ⅴ. 次年度繰越金額		1,171,269	155,428

(次年度繰越金) 百五銀行富田駅前支店普通預金 1,171,269円

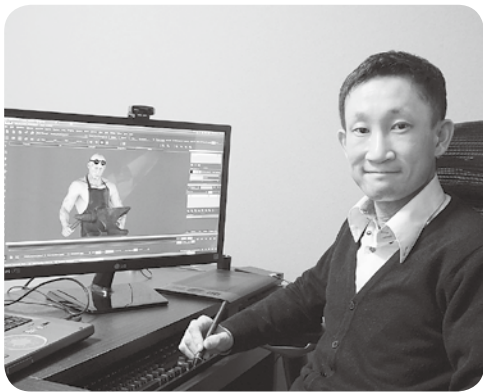
四日市高校同窓会 平成26年度 収支決算書					
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)					
単位：円					
【収入の部】					
項 目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額	
① 同窓会収入	入 会 金 同 窓 会 費	全日制 1,800円×1,066人 終身(20000) 346 10年(10000) 0 5年(5000) 1 3年(3000) 0 2年(2000) 2 1年(1000) 173	9,020,800 1,918,800	8,894,000 1,944,000	
② 雑収益			7,102,000	6,950,000	
③ 前期繰越金		利子、その他	42,635	27,407	
			248,593	248,593	
合 計			9,312,028	9,170,000	
【支出の部】					
項 目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額	
① 運営費	給 料 事 務 通	給料、手当 印刷、事務用品等 電話、郵便、インターネット関連費など	1,452,630 1,174,000 141,911 136,719	1,500,000 1,200,000 150,000 150,000	
② 会議費	総 理 会 理 事 会 常 任 理 事 会	会場費、懇親会費、案内状 会場費、会議費、案内状 会議費	127,431 60,516 28,806	200,000 100,000 70,000	
③ 事業費	会 報 クラブ活動助成金	会報印刷及び発送費 激励金など (一財)四高会への寄付金	1,709,910 909,910 800,000	1,700,000 900,000 800,000	
④ 四高会拠出金			2,600,000	2,600,000	
⑤ 積立金			2,900,000	2,900,000	
⑥ 予備費			53,364	100,000	
合 計			8,932,657	9,170,000	
百五銀行富田駅前支店普通預金 単位：円					
平成26年度収入	9,312,028				
平成26年度支出	8,932,657				
次年度繰越金	379,371				
平成26年度卒業生 同窓会費預り金	6,983,000				
今年度末	7,362,371				
特別会計積立金(百五銀行富田駅前支店定期預金) 単位：円					
前 年 度 末	41,980,354				
今年度積立金	2,900,000				
利 子	8,372				
今 年 度 末	44,888,726				

中垣 清介さんに アカデミー賞の栄誉

米映画界の最高栄誉とされるアカデミー科学技術賞が中垣清介氏（四高H10年度卒）に贈られました。

氏は英国ソフトウェア会社に在籍され、高画質な3次元CGで効率よく色や質感をつけるソフト「MARII」の開発に携わりました。

「MARII」は制作現場で幅広く利用されており、映画界への貢献が評価されました。



第7回 銀城親睦ゴルフ大会

四高同窓会第7回銀城親睦ゴルフ大会は11月5日（木）、秋晴れの下81名（男子75名・女子6名）の参加により四日市カンツリークラブで盛大に開催されました。なお優勝者及びB.G賞は下記の通りでした。
次回は11月10日（木）開催予定です。

女子の部

優勝 今谷 香さん

(50+45=95-18=77)

男子の部

優勝 藤 英之さん

(47+45=92-20.4=71.6)

ベストグロス賞

貝沼 悟さん

(40+37=77)



男女優勝者と熊澤会長



プレー後懇親会風景

会費納入のお願い

同窓会の事業はすべて会費により運営されています。会報の送付なども、財政上の理由から会費を納めた方だけに限らせていただいております。納入がまだお済みでない場合には、是非お早めにお願ひ申し上げます。

◆納入金額

終身会費 20,000円

毎年納入の場合

年会費 1,000円

◆納入方法

①郵便振替

口座番号 008201816367

三重県立四日市高校同窓会

※専用の振込用紙がありますのでご連絡下されば送付いたします。また同窓会HPよりダウンロードも可能です。

②現金書留

会館迄ご送金下さい。

《お問い合わせは》

四日市高校同窓会館まで電話・メールにてご連絡下さい。

平成26年度会費納入者

（敬称略）

○終身会費（2万円）

麻生充仁、荒木勇人、井口琴美、小井涼花、石川瑞稀、石田雄暉、伊藤開弘、伊藤早奈恵、伊藤巧朗、伊藤有梨、尾池由梨奈、大杉尚紀、尾西崇彰、川添このみ、小林優花、駒谷飛友土、澤野智暉、塩原遥、島田万莉子、島村正嗣、鈴木雄也、園田岳、高島綾乃、谷勝太、鳥井美波、中村浩也、生川太郎、面田駿、服部誠也、羽場亮太、林優花、藤本拓磨、増田千紘、松浦梨紗、村上奏衣、森一世、横川遥香、渡邊竹瑛、麻生大貴、安達朱梨、生田真穂、石崎千晶、板倉茉佑、伊藤千咲、伊藤海、大津亜理紗、岡永凌、後藤悠太、小林琴美、鈴木和智、相馬弘明、高野沙央里、竹内凌太、竹尾望、田中麻優子、豊田翔太、成田このみ、西小野里旗、西川のぞみ、樋口太地、平松祥梧、福井美紀、古川あすか、星野峻輝、前田真菜、水谷奈津子、水谷優希、村田優希子、森海渡、森川太貴、八嶋花菜子、山下翔太、山田瑞季、吉田朝陽、米倉健太、井上麻緒、上野晴菜、大泉奏磨、大河内富夢、小川真、小川侑己、荻須万友佳、奥裕理、川瀬裕斗、小崎稜平、仕田紗帆里、清水玲奈、清水蓮奈、菅原竜之介、杉野和美、田口雄一、竹野成太郎、外島響、富山恒、内藤浩喜、橋爪涼子、秦麻里菜、林可奈子、平井千夏、平子省治、増田温美、丸野晃暉、水川湧斗、水谷文香、水谷和史、水谷日花里、水谷美夕、宮崎拓海、宮地由梨、村山未来、森陽子、山田健太郎、山田有菜、吉田千紘、浅野敬恵、

お悼み



瀬木 慧 氏

（四高30年度卒）

永年にわたり、同窓会常任理事として会の発展のためにご尽力くださいました四高30年度卒業の瀬木慧氏が平成27年11月24日ご逝去されました（享年78才）。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

荒川泰行、伊藤慶、宇佐美満菜、浦田渡、大森美佳、岡本鷹一、尾関洸太、垣内琢規、苅谷優希、小笹真、後藤史也、小林麻里、坂倉健吾、佐久間勝斗、櫻井康平、佐竹颯太、佐藤日和、佐藤美結、杉野峰大、瀬古啓太、世古幸之介、高田憲輝、高橋明里、玉田菜津美、張雨生、辻星来、長嶋志帆、生川雄太郎、野呂あかり、萩田瑞生、服部貴斗、坂東裕哉、福田和紀、古市瑞希、南澤健太、宮澤佳奈、村木大峻、山中純恵、山本純平、渡邊慶子、浅井健矢、渥美友喜、伊藤光希、伊東凌、今井理咲子、植松駿斗、薄井洗樹、尾宮嘉希、葛山淑乃、加藤雄士、加藤亮太、河田健志、熊澤衛二郎、佐々木春香、島田美希、神保日華里、杉本幹太、竹下遼、玉谷幸輝、田村昌寛、千葉さわ、中井良輔、中谷和博、永戸優大、中村菜由、西田里緒菜、橋本海里舞、畑中涼帆、服部滉平、日沖優太、平田万季、松井将大、松永清雅、真弓卓也、真弓のぞみ、水谷優花、三輪晴香、山田姫乃、若森淳那、渡部奨之、石山大樹、一ノ関諒、伊藤はるひ、伊藤有紀美、井上涼大内万奈、岡本康暉、笠井雄介、加藤涼子、喜多嶋伸彦、倉橋孝典、児玉涼太、小西健斗、近藤芳穂、坂上瑠一、椎名夏奈子、須川響、鈴木雄大、園田彩華、田中陸也、田中亮太、田野達也、土肥栄里佳、中尾俊貴、中里紘也、橋本実空、原左京、平野花咲、藤井大貴、藤重通、古川裕貴、古田敦大、堀弥穂子、前野梨恵、丸山莉奈、已上諒太、水谷麻衣、森崎峻義、諸戸祐哉、矢田瑞恵、渡辺莉世、池田紗南、井関優華、伊藤史明、伊藤桃花、梅山航輝、江藤悠真、角見結美、加藤奈央、加藤遼、川北純也、

小林加奈、小森啓佑、坂井美有紀、佐藤史弥、四位菜祐果、島田聡子、清水和穂、清水道弘、城田誉士輝、鈴木愛理加、高井紀歩、田矢直之、土井裕介、藤堂晶輝、内藤圭太、長野一朗、中野仁亮、中村宏樹、西浦牙絵、西原瑞己、西村拓馬、西脇里歩、服部雅史、樋口静来、平井祥太、廣瀬翔太郎、藤井壮一郎、藤澤悠貴、松岡裕介、山本大貴、赤木克、生貝悠人、石川志帆、伊藤彰浩、伊藤有香、伊藤優太、植田樹、大須賀一輝、太田剛史、川口敦広、喜田勇志、黒田奈那、左近真以、佐藤末菜、城ノ口卓、杉浦夏帆、鈴木あかね、妹尾貴弘、館祐史、橘建志、立石貴大、田中淳平、中山詩歩子、西浦永花、西尾佳将、西尾秀輝、西原幸佑、西村翔平、福井青空、福本ひなの、藤井大暉、古市真梨、本田直、前田理沙、三厨航、水谷歩、南川昂紀、宮下敢多、森田大智、横田なつ希、板倉幸平、稲垣裕也、宇佐美創太、江崎唯、大島知之、桂山恭成、川島京子、佐名木悠斗、中川碧、波田妃奈、平野早紀、藤澤早樹、本間菜々美、松永啓吾、三木智弘、水谷梓、三井みのり、飯島実優、岩田彩生乃、植田啓太、宇野菜摘、岡本果林、小関詩津恵、川瀬涼太、紀平俊矢、五軒矢桜、後藤帆貴、近藤諒一、坂田一馬、柴山道登、竹村知洋、平野伊吹、松浦祐樹、松本優香、八木玲子、山川真由子、山口真史、山本洵、横山歩乃加、山下洋一、八木統治、福田久恵、福原未来、加藤由美子、真弓徳光、種橋潤治

（平成27年12月現在）

○5年会費（5千円） 1名

○3年会費（3千円） 2名

○1年会費（千円） 157名

誠にありがとうございました。



年寄りの雑感

清水 浩二
（富中45回卒）

三重県立富田中学校最後の卒業生として巣立つてから67年になる。

戦中戦後の混乱期を乗り越えて来た同級会（鳥出会）の結束は今も固い。4年ごとのオリンピックの年に相集い、夜の更けるのも忘れ、飲み語り合ってきたのも遠い昔の思い出になってしまった。最近、回を重ねる毎に参加人員も減少し、寂しい同級会である。

昨年6月に、会長の伊達則彦氏が急逝され、残り少ない生き残り組で懇会を開催したところ、亡き友のご夫人の皆さんが多数参加され盛大であった。今後は、夫婦合同の「新鳥出会」の発足を計画している。

さて、人間誰しも、自然に生まれ育ち死んで行くのが天命である。そして両手の5本の指を駆使して生活を営み、さらには文化芸術の分野でも、素晴らしい物作りを行ってきた。ところが、最近の急速な技術革新は、5本の指を駆使する勢いで進化した、われわれ高齢者にとって、まことに不便でいて行けない。更に、地球資源を丸齧り、有

害物質を撒き散らし、ついには、宇宙への挑戦とエスカレート、まさに、阿弥陀様と孫悟空の現代版の様相である。そして、民族間の差別、貧困、憎しみと争いは、この世のものと思えないほどで、このままでは、人類滅亡の危機に直面しているといつても過言ではない。今こそ世界の叡智を結集し、まもなく100億を超える人類が、平和に共存できる方策を考えて欲しいものだ。

私は今、老躯に鞭打って、障がい者、障がい児中心の、介護施設の手伝いをしてい



るので、余裕のある人や、高利益を上げた会社から、少しでも弱者に還元して頂ければ有難いものだ。

昨年、人生85歳を迎え、この年になって初めて分かることがあると、若い人を前に一席ぶつたところ、篠田桃紅先生の著書「二〇三歳になつてわかつたこと」が昨年のベストセラーになったことを知り、早速読ませていただいた。さすが103歳、悟りを開かれた女史の言葉の数々に、わが身の未熟さ、修行の足りなさが恥ずかし、穴があつたら入りたい思いであつた。般若心経の「般若波羅密多」の境地に立てるのはいつの日か、まだまだ先になりそうである。

浮潮の滯標



樋口 勝典
（四高36年度卒）

卒業以来、学校とは疎遠になり、偶に野球部の練習姿を近鉄のホームから眺め、自分にも滄刺とした時代があつたなといふ、若干の羨望も交えつつ、ほんの数秒、感慨にふけるだけでした。

ところが昨年、この会報への投稿の依頼があり、安請け合いをしたものの、さて文章を綴る段になると、卒業して半世紀以上もの歳月が大きな重石となつて、記憶の扉を閉ざし、容易に開こうとしませんでした。しかしながら、乾いた雑巾でも絞れるという話ではありませんが、絞れば、老化した脳裏にも、幾つかの情景とともに、教訓になった幾つかの言葉や授業での様子が蘇ってきました。

卒業以来、学校とは疎遠になり、偶に野球部の練習姿を近鉄のホームから眺め、自分にも滄刺とした時代があつたなといふ、若干の羨望も交えつつ、ほんの数秒、感慨にふけるだけでした。

ところが昨年、この会報への投稿の依頼があり、安請け合いをしたものの、さて文章を綴る段になると、卒業して半世紀以上もの歳月が大きな重石となつて、記憶の扉を閉ざし、容易に開こうとしませんでした。しかしながら、乾いた雑巾でも絞れるという話ではありませんが、絞れば、老化した脳裏にも、幾つかの情景とともに、教訓になった幾つかの言葉や授業での様子が蘇ってきました。

一方、地域社会も同様で、同窓会や在校の皆さんには、富田の地域も大変お世話になっていきます。同窓会には、十四川の桜の植栽への財政的支援、在校生には、地区の敬老記念日のブラスパンドの演奏等、本当に有難く思っています。

四高は、県下で唯一のスーパー・グローバル・ハイスクールに選ばれ、かつての自分の学力では、到底入学できない程の高校だと伺っています。

残念ながら現代は、地球的な規模で憎しみや不安が広まっています。在校生の皆さんには、将来、これらの課題に堂々と対峙し、もてる能力を十二分に発揮し、それぞれの立場で、これらの課題の克服に活躍いただくことを期待するとともに、そのためにもご精進もお願いしたいと考えます。是非とも、伝統ある校史を繋いでいただき、更に、大輪の花を添えていただきたいものです。



堅いつぼみもいつか花咲く

新田 智恵美
（四高52年度卒）

2月、久しぶりに十四川の六百本の桜並木を眺めた。枝にびつしりといっているのは確かにつぼみ。地味な樹皮色で木のよ

うに堅い。

高校時代、吹奏楽部だった私は楽器を吹きながら、薄紅色の桜ドームに身を置き、秘密の花園気分を味わうのが好きだった。振り返れば、それは一種の現実逃避だったように思う。

入学直後から授業やテストで劣等感に支配されたのは、多感な思春期には耐えがたい辛さで、疾風怒濤の渦中、自分が嫌いで仕方がなかった。何をやって自分より格段にできる人たちの中で、自分が小さく思えた。井の中の蛙ってこういうことだったんだと通感した。

四高祭は刺激的だった。そして、そんな自分に一筋の光を見つけてくれた。企画、演出、統率力に圧倒されたり、音楽や美術、建築を目指す人達がアイデアを出し合い作品が完成していく過程を目の当たりにした。衣装係の私たちはシャツを染めて服を作った。「仕事って学力だけじゃない。」家庭科教諭を目標にしたきっかけかもしれない。上より前を見よう。そして、できる限りのことを地道にやり続けることだけを考えようと諦めのような決意をした記憶がある。

薄紅色の桜の下で学んだ仲間が、いつか色とりどりの花開かせる、母校がそんな学びの場であることを願ってやまない。

コーシローを探せ

西山 幸士郎（四高50年度卒）
山川 久美子（四高51年度卒）



前年度会報掲載の伊吹有喜さんの「犬のいた日々」は、あの犬を知る世代から反響をいただきました。これは犬の名前の由来者N氏と後輩Yのある日の対話です。

人物



ソ連抑留記



今谷 慶郎

（富中38回卒）

私は戦後3年余りソ連に抑留された。当時の様子を書き残しておきたいと思う。

私はS 19年12月1日に齋宮航空隊に入隊、年末には満州チハハルの航空に転属、S 20年6月幹部候補生となり、公主嶺教育隊に入所した。

S 20年8月、ソ連参戦に伴い捕虜となり、新京収容所で王子製紙の設備をソ連へ移送する作業に従事させられた。

S 20年12月、貨車にて15日間走行、チタ西方のテレンホーボーという町のピアピスという炭鉱へ送られた。石炭埋蔵量60億トンとも言われる所で、数多い炭鉱の一つで働かされた。

私は地下40米の坑内で、掘り出された石炭を貨車に積み込む作業を命じられた。

当初は12時間勤務だったが、約半年後には8時間になった。坑内は年中±0℃で働き易かった。外部は夏は40℃冬はマイナス30℃～50℃でマイナス59℃を体験したこともある。又半年以上は雪に覆われていた。落盤事故や発疹チフスで多く

の同朋が亡くなった。

最初は労働や寒さに辛い思いをしたが、慣れるに従ってあまり感じなくなった。只、一日も早い帰国のみを願った。山梨工高電気科卒の履歴がバレると、高い役につかれ帰国が遅れるので中卒を偽って申告した。

収容所は木造の粗末なものだったが、自分等で地下に部屋を作って僅かに寒さを凌いだ。

S 22年11月、貨車の荷下ろし中材木の下敷きになり、脛骨を骨折し、ジマの病院にS 23年3月迄入院した。

S 23年4月、帰還要員になりイルクーツクに移動、社会主義に従わなかった為帰還延期となり、市内の道路工事をを行った。

S 23年9月、帰還要員としてナホトカに移動、数日間の社会主義教育の後、漸く11月に乗船、13日の後舞鶴港に上陸、待望の日本の土を踏む事が出来大変嬉しかった。

思えば大変厳しい抑留生活の為、3年間の青春を無駄に過ごした思いが強く残っている。

東京・日本橋を目指して

西村 隆三

（四高42年度卒）



一〇年位前から一度東海道を歩いてみたいと思っていた。なかなか実現できずにいたが、退職後一年過ぎた昨年六月、大阪・京都間を試歩？ してみた。良い感触を得て、東京まで挑戦することに。といっても、月に二日、一日25キロ位のペースである。旧街道にさほど拘りは無いが、〇〇宿の案内や、所々に見られる松並木が往時を偲ばせ樂しめる。現在天竜川を越え、磐田市に入ったところ。人生の終着駅到達はもう少し先にしたいと願っているが、今回の目的地《東京・日本橋》到着は夏まで

に思っている。

余談二 関ヶ四日市

中一から高一までは小古曾にいた。大きな社宅だったが影も形も無くなっていた。大型ダンプの行きかう姿が悲しく見えた。ただしこの時は良いことも。四高時代の旧友と連絡が取れたことである。色々話ができ、後日再会も果たすことが出来た。

余談三 四日市へ桑名

途中で四高に寄り、同窓会館では大先輩の方とも話が出来た。その際、東京に向け歩いているとうっかり漏らす。これがこの拙文を投稿する羽目になった原因である。《口は災いの元》とはよくいったものだ。

余談一 大阪へ枚方

独身のころ寝屋川に五年ほど住んでいた。そのころよく通った飲み屋の暖簾をくぐると、懐かしくも、怪訝そうな顔がそこにあつた。しばらくして「西村さんとおやうか？」と主人。ご明察。いや感激した。35年振りだというのに。この日の酒は

自分に出来る事を

古市 リツ子

（通信制平成11年度卒）



今年の5月26・27日に伊勢志摩サミット・先進国首脳会議が伊勢志摩地方で開催されます。マイナー県三重がいつきに注目され、伊勢志摩近隣地域が県内外に向けてピーアル商戦で躍

Y・・・コーシローのことなんやけど。
N・・・それ！下級生に突然名前を呼ばれてさ。振り向くと犬。紛らわしかった。
Y・・・幸士郎さんが由来だよ。
N・・・昭和49年春前かな。僕が欠席した日に、茶色の犬がひよっこりと部屋に現れて、同級生が「あれ、幸士郎来とるやん」と、自然に名付けられたね。命名者は数人の同級生だよ。
Y・・・私の入学時にはすでにいたなあ。「捨子犬」という説は？。
N・・・ちがうね。確かに「子犬放置事件」はあった。コーシ

ローは母かもしれないけれど、子犬の中の一匹ではないよ。
Y・・・初めはホワイトハウスあたりにおったね。
N・・・そうそう、ホワイトハウス在住の生徒が餌をやったり休み時間に世話しとったよ。
Y・・・夏には渡り廊下の真ん中でべたべたと寝とったし、正門付近でも目撃されとる。
N・・・用務員さんたちにもきちんと世話してもらえたようだね。アルバムにも写っとるよ。
Y・・・追い出そうとか、それを生徒会が止めたということはない？
N・・・それはないな。生徒のやることに先生も口出しせずに見とつてくれたしね。名付け親が生徒会長というのも違う。
Y・・・出現後10年生息していたやね！
N・・・コーシローが死んだときには新聞に載ったね。あの墓はまだあるかな。当時の実際のコーシローを覚えている卒業生の記憶を集めれば、出沒からの半生がわかるかも。
Y・・・行動地図もね。
N・・・四高は自由闊達だった。自治の風潮もあった気がする。先生との仲もよかった。
Y・・・私たちが幸せな高校生活を送ったことやね。
N・・・そうやね、今でも誇りに思うよ。
Y・・・一匹の犬が心を暖かくしてくれて、みんながつながるってええな。
N・・・四高今昔物語やな。

リレー随想

〈第19回〉

昭和30年全国高校野球選手権大会
（夏の甲子園）優勝あれから60年

優勝選手・遊撃手

伊藤政継（四高30年度卒）



夏の甲子園大会優勝60周年にあたり、昨年5月四高野球部OB会主催で高橋投手以下優勝メンバー8名を中心に現役野球部員との交流会を開催し、母校グラウンドで練習試合を観戦後、夏の大会前の選手を激励した。優勝メンバー一人一人から優勝に辿り着くまでに経験した幾多の苦しみや野球の素晴らしさについて語り、四高野球部の甲子園出場を楽しみにしていることを伝えた。現役選手からは「日本一の文武両道」を目標に日々全力で励んでおり、将来は社会の進歩に貢献したいと力強い言葉があった、実に頼もしく感じた交流会であった。

又、昨年は高校野球100周年の年にあたり、様々な記念行事が催された。NHKでは各県のベストゲームを放映。三重は「四日市高校奇跡の優勝」をタイトルに、昭和30年夏の全国大会の決勝戦が放映され、多くの四高OBの方々が懐かしくご覧になったものと思う。

さて、ご存知の通り校訓の「質実剛健」「文武両道」は心身共に健全な人づくりを目指して文武に励むことにあり、部活動を通じ強い人間を育てることにあった。高校野球は生徒の心身の健全な発達とスポーツマンシップの涵養を目的とするものであり、あくまでも高校教育の一環であることを銘記すべきである。世の人はそれをどう両立させるかと聞かすが、そう言う言い方自体がおかしいのであって、両立して当たり前なのが教育であると即座に答える。

当時はディフェンス重視の野球で、一人一人の個性を活かし自己実現の場所を与えれば人は大きな力を発揮するという信念の下に徹底的に選手を鍛え上げ投手を中心にバックがしっかり守って勝つ野球を目指した。高校生としての規律を重視、選手の育成に力を注ぎ、その成長ぶりを心から喜ばれる指導者の下で鍛えられたことを思い出す。

春の中部地区大会の優勝で自信を付け、夏の県大会を順当に勝ち進み、津高と共に三岐大会（当時は三重・岐阜の2県で1校の出場枠）に駒を進めた。宿敵岐阜高を1-0で倒し、決勝戦は津を破った岐阜商と対戦、11-0で大勝利、夢にまでみた甲子園出場の道が開かれた。特に対岐阜高戦は三岐大会の名勝負と後々まで語り継がれた好試合

で、私自身のベストゲームはこの一戦であったと今でもこの時の感激を忘れることはない。

夏の甲子園大会では、四日市の高橋投手は左の四天王と言われていたが、チーム力としてはダークホース的な評価すらなく、ただ一戦一戦を無欲で戦い芦別（3-1）城東（1-0）中京（6-1）を破り決勝戦に臨んだ。優勝戦は勝ちたいという思いで一杯であった。ここまで来れば満足と思っている者は誰もいなかった。四日市は試合の前のジャンケンに勝っても常に先攻をとる作戦で、この試合も一回表の先制攻撃が功を奏し、坂出商業を4-1で破り、この瞬間ついに夏の甲子園大会初出場初優勝の偉業が達成されたのであった。

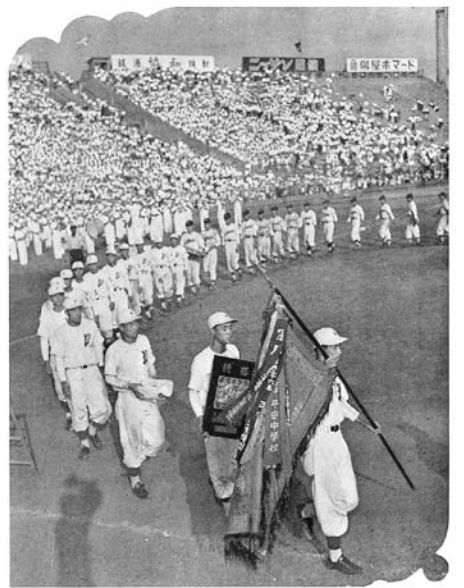
閉会式で連盟は「高校野球のあり方を再認識させた優勝で、地元選手の育成で全国優勝を成し遂げた四日市高校の成果」を大いに評価し賛辞を惜しまなかった。決勝戦のスコアブック（同窓会館に保管）に当時のマネージャーが書いたこんな言葉がある。

「甲子園の毎試合が、この試合中に夢の様に感じられた。唯、全選手が茫然として、感涙が頬を伝っていた。甲子園で見事勝ったのだ。君も泣け。僕も泣く。」

優勝戦の翌日帰郷、近鉄四日市駅前から数台のオープンカーに分乗し市内をパレードしたが、四日市の町は人人人で埋まり、その熱狂的な歓迎ぶりに驚いた。四日市高校の初優勝が地元の皆さんにこんなに喜ばれ感動されている様子に、更なる感激と幸せを感じた。漫画家水木しげる氏の言葉にこんな一節がある。「幸せは心と体で感じるもの」、まさにそんな心境であった。この日の人出は17万人、四日市市始めて以来の喜びに沸き立ったと報道された。

あれから60年、一言で言えば「ネバーギブアップの精神」で頑張ってきた60年だったような気がする。「お前たちの甲子園はすぐそこにある。試合に勝つには練習に勝て、練習に勝つには自分に勝て」と教えられ、あの猛特訓に耐えた精神力で全国優勝という宝物を手にすることができた。これからも、この人生最高の思い出を大切にしていきたい。

大優勝旗を先頭に場内を一周



前号より、青山副会長に後続をお願いするまで22年。H4年より25年まで筆を執りました。露のように、わずかなスペース（約1000字）。文字が示すように、はかない露のような、それも一滴と、ほんのわずかなスペースですが、小さな露滴でも一滴一滴はキラリと光るものをもっています。するどい光、温かい光、冷たい光、7色の光等、多様な光の美しさを出すべく苦労しました。▼4万9千名を超える卒業生諸氏の心には、母校を取りまく四季折々の自然の恵みが先ず思い浮かぶことでしょう。春の十四川の桜、夏の炎熱のグラウンド、秋雲の下、校内外の活動、鈴鹿おろしの冬。卒業生一人一人の心の片隅にキラリと光る自然の恵み。恩師、上・下級生との人間交流も、この自然のキラリと光る恵みのお蔭です。▼第62号に書いた田村初代校長の建学の精神「質実剛健」「文武両道」は脈々と受け継がれ、校章「八稜星」の如く、国

内は勿論、国際的にも卒業生は羽ばたき活躍を続けております。特に、戦後、富田中、四日市高女、北高女の合併の新生四日市高等学校が誕生。戦後復興のハングリー時代「質実剛健」の精神による教育、勉学とクラブ活動の両立の成果が開花。昭和30年硬式野球部が甲子園初出場初優勝の偉業を成し遂げ、全国に四日市高校の名を知らしめました。昭和30年頃を機に、日本の高度成長と共に、社会は有為な人間をと高学歴者を求め、教育現場もそれに同調、安易に有名大学志望が増え、進学、受験態勢の学校が増加。異常現象に学校群制度まで実施されました。混沌とした時代に入り、教育の根源は何なのか。人間教育は何処へ行つたのか。▼2016年創立116年を迎えた母校も県下唯一のスーパースクールハイスクールと期待され、教育環境・ハード面は何不自由なく生徒諸君は元気に活動しているようです。しかし、今一度、本校初代校長の建学の精神「質実剛健」「文武両道」を共有する人間形成教育がなされているかを見つめ直さなければなりません。建学の精神を徹底して身につけさせる教育こそ、真のグローバル人間を育てる学校だと思います。このこそ母校の益々発展する未来を祈念する同窓生一同の願いであるはずで

す。同窓会報の益々の充実とキラリと光る露滴の輝きを期待しております。

「露滴」欄の執筆を終えて

鈴木田俊二（四高28年度卒）

仲間の大切さ

3年9組 片山友香



私が四日市高校で一番良かったと思うことは、お互いに思いやり助け合える仲間に恵まれたことです。勉強で分からないことがあった時は、教えるだけではなく、一緒になって考えてくれる人もいました。四高祭などの行事では、クラスの仲間のために進んで協力できる人がたくさんいることに改めて気づきました。でも、それは決して当たり前のことではないと思います。ここで3年間を過ごすことができたことをとても嬉しく思っています。

高2の頃には、SGHの取り組みが始まりました。私は人前で意見を発表することが苦手でしたが、いい機会だと思い、グローバルリーダー学に参加しました。他クラスや他学年の人と話し合ったり、自分でテーマを決めて調べたりすることは、今振り返ると、自分の成長に大きくつながっていると感じています。

また、私は書道部に所属しており、先輩の代から始まった書道パフォーマンスに挑戦しました。字そのものの練習から演出まで自分たちで構成していくのは難しく、準備にも想像以上に時間を費やしました。しかし、本番では私たちの舞台を見る皆さんの応援に励まされながらもやりきることができ、部活動としての一体感を味わうことができました。この経験を通し、仲間とともに一つのことに向かうことの大変さや喜びを学ぶことができたと思います。

今まで支えてくださった先生方やクラス、クラブの皆さん、ありがとうございました。高校生活で学んだことや出会った仲間を大切に、これからも何事によらず前向きな姿勢で取り組んでいきたいと思っています。

学園だより

全国高総文祭に参加して

美術部2年 高木梨帆



私は昨年度のみえ高文祭で県代表に選ばれ、7月に滋賀県で行われた全国高等学校総合文化祭美術・工芸部門に油絵を出品しました。

高文祭は私にとって初めての公式大会であり、また大きな絵を描くのも初めての経験で、完成させられるのか不安でした。私は空想上の廃墟となった街の絵を描きました。空想上の物なので建物の質感や入り組んだ街の構造を表現するのに苦労しました。しかし、少しずつキャンパスの上に自分がイメージした世界が広がっていくのがすごくうれしかったです。自分の絵が展示会場で壁に

かかっているのを見た時は、大きな達成感を得ることが出来ました。

全国高総文祭では他県の代表の方々と作品に対する意見や感想を述べ合いました。全国の高校の美術部の方と交流をするのは滅多に出来ないことなのでよい経験になりました。様々な意見を頂き描いている時は夢中でなかなか気づかなかった新たな発見があり、自分の絵を客観的に見るのも大切なのだということが分かりました。展示会場には写実的な作品から抽象的な物まで本当に様々な作品があり、どれも作者の熱意が感じられとても刺激的でした。レベルの高い作品にふれ、私ももっと良い作品を作りたいという気持ちになりました。

私が短い制作期間の中で搬入直前まで粘り強く作品に向き合い完成させることが出来たのは、指導して下さった先生、私たちの手本となり美術部を引っ張って下さった先輩方、共に制作に励んだ同輩のおかげです。一人では決して出せなかった結果だと思うので感謝の気持ちでいっぱいです。

作品制作を通して多くのことを学びました。最後まで諦めず取り組む姿勢や、自分と向き合うことの大切さ、感謝の気持ちを持つことを忘れずに今後も様々なことにチャレンジしていきたいです。

かがやく四高生（SGH事業報告）

教頭 山口雅弘

「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」事業は、高等学校等におけるグローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的としています。本校は昨年度からこの事業の指定を受け、様々な教育活動に取り組みを進めました。具体的には以下のとおりです。

1. 元世界銀行副総裁の西水美恵子さん（5月）やNPO法人テラ・ルネッサンス創始者・理事である鬼丸昌也さん（5月）、韓国世宗大学教授の朴裕河さん（11月）等による講演や、各個人がテーマを設定し探求活動を通して進める研究、論文作成を行うことで、全校体制でグローバル・マインドの育成を進めました。

2. さらに意識の高い生徒（1年73名、2年38名）は学校設定科目「グローバル・リーダー学」を履修し、元厚生労働大臣の坂口 力先生の講演を始め、著名な大学教員や企業人等、日本や世界で活躍する専門家からの継続的な指導を受けるとともに、カンボジア（16名）や中国天津（14名）の海外フィールドワークを通し、課題研究をさらに深化させました。

3. この2月2日には、四日市市文化会館にて「四高SGHスーパープレゼンテーション」を開催し、地元企業や四日市市からの来客も含め成果発表会が行われました。また、東海SGHサミットなど他県のSGH校と連携した企画も行い、生徒間の相互研鑽や実践につなげました。

4. 外国人講師の指導により、課題研究テーマに関する内容について英語で討論を行う「白熱英語講座」では、百余名の生徒が参加し、英語で論理的に考える学習が行われました。

5. 早稲田大学と連携し、市民性・社会性

育成にかかる効果測定の数値の開発に向けた取組を進め、SGH事業の成果検証に取り組みます。

また、SGH事業の指定を受けたこともあり、平成18年以降実施されていなかった海外語学研修を実施しました。今年度はオーストラリアへの研修で、ジンブバ市にあるヒルズ学園で授業に取り組んだり、クイーンズランド大学を訪問したりと充実した内容でした。募集時には定員を上回る多くの希望があったことから、次年度も引き続き実施する方向で計画しています。この研修に関わり、同窓会から当研修参加の生徒への支援をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。



編集後記

天候にしても経済の動きにしても、近頃社会全体、予測不能のことが次々起こる日々。が、ぶれず動じず、「自分」を持ち続けたいと願います。（小林）

同窓生交歓



富中第45回生 鳥出会 H27.10.27 (四日市プラトンホテル)



本年で最終例会としました
今回は過去にお世話頂いた亡き友の奥様方も招待いたしました 伊達貫一郎

富中第41回会 H27.10.3 (四日市都ホテル)



北海道富中・四高会 H27.6.11 (札幌すすきの川基本店)



富中三八会 H27.12.3 (四日市たまゆら)



星稜会(卓球部OB会)関東地区懇親会 H27.11.18(葉な/丸の内)



森下杯(四高卓球部OB会卓球大会) H27.4.12 (四日市あさけプラザ)



四高38年度3年5組クラス会 H27.11.17 (みやび四日市店)



通信制親睦旅行 H27.5.17 (乗鞍岳畳平)



星稜会(卓球部OB会) H27.4.11 (四日市たまゆら)



四高59年度卒業生同窓会 H27.9.12 (四日市都ホテル)